

AutoMate 11 リリースノート

【11.4.0】



三和コムテック株式会社



内容

1	はじめに	3
2	AutoMate 11.4.0 リリースノート	3

1 はじめに

本書は AutoMate 11 ver.11.4.0 の変更箇所について、リリースノートとして記載しています。

2 AutoMate 11.4.0 リリースノート

【新機能】

- ・ [HTTP]アクションの機能拡張
 - Automate Pro・Premium・Desktop・Enterprise・Plus・Ultimate
 - 新規[HTTP-定義]アクションが追加されました。このアクションを使用することで定義済みの HTTP 接続が作成可能になります。ユーザーはこれらの定義済みの HTTP 接続と認証情報を 1ヶ所で設定し、タスク内で[HTTP]アクションとして何度も再利用することができます
 - 認証方式(OAuth 2.0, Bearer Token, API キー)が追加されました
 - JSON デコーディングに関するいくつかの問題点が修正されました

- ・ [PDF]アクションの機能拡張
 - Automate Pro・Premium・Desktop・Enterprise・Plus・Ultimate
 - 注釈に関連する新規[PDF-注釈の追加]と[PDF-注釈の削除]、[PDF-注釈のリスト化]アクションが追加されました
 - [PDF-挿入]アクションを使用して画像を新しいページとして追加できるようになりました
 - [PDF]アクションに関するいくつかの問題点が修正されました

- ・ セキュア変数機能
 - Automate Pro・Premium・Desktop・Enterprise・Plus・Ultimate
 - この機能は[変数-作成]アクションで変数の値を暗号化するオプションです (タスク編集集中に表示される変数の値が暗号化されます)
 - ただし、セキュア変数は実行時にデバッグウィンドウ等でプレーンテキストとして参照可能です

- ・ 認証情報
 - Automate Enterprise・Plus・Ultimate のみ
 - 認証情報をシステムオブジェクトとして追加可能になりました
 - メインの認証情報ページは各ユーザーのアクセス権限があります
 - 認証情報はタスク内でグループの別のユーザーによって使われていても、グループのユーザーにより閲覧/編集可能です
 - タスク内に設定した認証情報の値は開発時・実行時ともに参照できません
 - 特定のフィールドにこの機能が利用可能です。現時点では一部のアクションの「アクション プロパティ」画面上の一部フィールド (パスワード、パスフレーズ) に対応しています
 - 認証情報の不正使用は監視され、不正の参照はタスクから自動的に除外されます

- ・新規アクション[機械学習]
 - Automate Enterprise・Plus・Ultimate のみ
 - AutoMate 変数・配列・データセット・式を学習済みの ML.NET モデルに渡して処理させる機能が追加されました
 - Automate Plus・Ultimate で実行済み・学習済みの ML.NET モデルの結果を利用できる機能が追加されました

- ・タスクとワークフローの起動 API の機能拡張
 - Automate Enterprise・Plus・Ultimate のみ
 - 変数名・変数の値ペアをオプションパラメーターとして渡せるようにタスクとワークフローの起動 API に追加されました

【機能拡張】

- AutoMate は当リリースから .NET Framework 4.8 をインストールおよび使用するようになりました
- [PDF-添付ファイルの取得]アクションに既存の添付ファイルを同じ名前で上書きまたは一意ファイル名で保存するオプションが追加されました
- [PDF-抽出]アクションに抽出した内容を複数ページの TIFF ファイルとして抽出するオプションが追加されました
- [PDF-作成]アクションにページの向きを変更するオプションが追加されました。
- データストアに接続できない場合、タスクビルダーはディスクへの保存機能が提供されます
- 管理コンソール(SMC)において既存ユーザーの名前が変更可能になりました
- [Share Point-ファイルのアップロード]アクションにファイルをアップロードする際、メタタグを設定するオプションとアップロードしたファイルの ID を取得するオプションが追加されました
- 定数を編集する際、変更の適用後カーソルはリストの最初に戻らないようになりました
- [FTP-ログオン]アクションは SSL/TLS(暗黙的)接続に対応するようになりましたまた、TLS1.0 の接続方式は無効になり、TLS1.1 と 1.2 の接続方式が有効になりました
- [FTP-ファイルのアップロード]アクションにマルチスレッドアップロードを利用可能なオプションが追加されました
- 定数の値はタスク変数を作成する時に初期値として割り当てることが可能になりました

- [ファイルシステム-データセットから CSV]アクションはデータセットのセルを CSV ファイル上においてダブルクォーテーション「"」で括るオプションが追加されました
- タスクインスタンス ID とトランザクション ID は新しい Extended Function である GetWorkflowinstanceID と GetTransactionID で取得可能になりました
- AMCurrentWorkflow と AMCurrentTask データセットは StartTime と StartDate パラメーターを格納するようになりました
- [Email-メッセージの送信]アクションが送信したメールごとにそれに関する情報をデータセットとして生成可能になりました
- [ダイアログ-ファイルを開く]アクションのファイルとフォルダーのブラウザ機能が改善されました
- 管理コンソール(SMC)でデータストアの認証情報を変更することにより、データベースインスタンスはクリアされず、ユーザーに変更を適用するために AutoMate Enterprise サービスの再起動を促すようになりました
- イベントビューア-ログは成功・失敗した Email トリガー接続を記録するようになりました
- [BASIC スクリプト-スクリプトの実行]アクションの「埋め込み」ウィンドウサイズは大きくなりました

【不具合修正】

- [Exchange-オブジェクトの取得]アクションにある添付ファイルのフィルター機能は正常に動作するようになりました
- [PDF-抽出]アクションは TIFF 形式のファイルを正常に抽出できるようになりました
- [PDF-フィールドの設定]アクションは変数にカンマを含んでいる場合でも正しくフィールドに値を設定するようになりました
- [PDF-分割]アクションは分割対象に中央に位置していない画像のページを含んでもエラーを引き起こさないようになりました
- 管理コンソール(SMC)上のエージェントに「注記」を追加しても管理コンソールはクラッシュしなくなりました
- [HTTP-Get]アクションで生成したデータセットは即時に読み込めるようになりました

- [テキスト-サブstringの取得]アクションに変数が正しく設定されるようになりました
- [JSON-デコード]アクションが正しい数の構造を生成できるようになりました
- [JSON-デコード]アクションがパーセンテージ記号(%)を含む文字列を正しくデコードできるようになりました
- タスクの優先度は正しくエージェントに適用できるようになりました
- エージェントグループに入っているエージェントとして同時に実行されていても、Extended 関数 GetAgentName()は正しくエージェントの名前を返すようになりました
- [Excel-ブックを閉じる]アクションは excel.exe を正しく閉じるようになりました
- タスクビルダーの「ファイル」→「送信」「タスクをメールで送信する(添付ファイルとして)」と「すべてのタスクをメールで送信する(添付ファイルとして)」は正常に機能するようになりました
- [データセット-作成]アクションはデータセット名に式を含む場合でもエラーを引き起こさないようになりました
- [Web ブラウザ]アクションで「HTML 要素を検索する」の「クリック」を使用した後、正常にタスクビルダーにフォーカスを戻すようになりました
- Automate Desktop は英語以外の OS でインストールに失敗する問題を修正しました
- [XML-保存]アクションは余計なスペースと改行文字を空白の XML フィールドに追加しなくなりました
- データセットの列名にクォーテーションを含むとエラーとなる問題を修正しました
- [Web ブラウザ(従来)-値の取得]アクションは Internet Explorer 上表示するチェックボックスの状態が取得できるようになりました
- [Web ブラウザ]アクションはエージェントのみがインストールしているマシン上でも Chrome を実行し、アップデートすることが可能になりました
- [Web ブラウザ]アクションで「要素ロケーター」を使用しても Web ブラウザのウィンドウはリサイズされないようになりました
- [Web ブラウザー-セッションの作成]アクションは最新の Chrome と Firefox のダイアログボックスに対応するようになりました

- [Web ブラウザ]アクションは Chrome の拡張機能を無効化しなくなりました
- 非英語 OS で稼働するエージェントにおいて、エンコーディング問題によるダブルバイト文字が送信・受信できない問題が解消されました
- 日付形式問題による Email トリガーが非英語 OS 上で正常に動作しない問題が解消されました
- 管理コンソール(SMC)でエージェントのアイコンを右クリック→Goto→SMTP を正常に SMTP の設定画面が開けるようになりました
- タスクの優先度は正常にタスクアドミニストレーターで保存できるようになりました
- [JSON-デコード]アクションのソート問題が解消されました
- [JSON-デコード]アクションがオブジェクトのキーにスペースが含まれる文字列でも正常にデコードできるようになりました
- [スピーチ-テキストの読上げ]アクションに以下の修正を行いました：
 - すべて言語に対してテキストからスピーチに変換機能が提供されました
 - 「英語以外の言語を使用する」に設定したチェックは「OK」を押した後、再度設定画面を開いてもチェックは記憶されるようになりました
 - 「テキストを読み上げない」にチェックを入れると、ボリュームは0まで調整しなくなりました
 - タスクビルダーはプレーボタンをダブルクリックにより、クラッシュしなくなりました
ただし、「音声」は依然として「default」に設定されます